

2025年度食用油の原材料に関する公開質問 2025年8月

分別：非遺伝子組み換え、不分別：遺伝子組み換えと非遺伝子組み換えを分けていない

●非遺伝子組み換え原材料のみを使用していると公表しているメーカー

メーカー名		平田産業有限会社		米澤製油株式会社	
質問1	商品名	国産なたね油	純正菜種油一番搾り	国産100%なたね油	圧搾一番しづらなたねサラダ油
	原材料／原産国	ナタネ／北海道・青森・福岡・佐賀	ナタネ／オーストラリア	ナタネ／北海道、青森他	ナタネ／オーストラリア
	遺伝子組み換え 分別	○	○	○	○
	使用開始時期	2011年	1999年	1990年代	1990年代
質問2	非遺伝子組み換え原材料を使用している製品に関して、今後、遺伝子組み換えるものに切り替える予定の有無とその理由	無 弊社は非遺伝子組み換え菜種を原料とした菜種油専門メーカーです。		安全性や環境への影響を考慮し、遺伝子組み換え原料は使わない方針を変更する予定はないから。	
質問3	非遺伝子組み換え原材料の調達に関する昨年との変化について	現状、調達量においては問題ありませんが、原料価格は若干ですが上がり基調となっております。		オーストラリアで収穫される菜種の遺伝子組み換え比率が急速に高まっている。	
質問4	遺伝子組み換えでない原材料の製品を供給するための課題	遺伝子組み換えでない原料をいかに安定供給するか、だと思います。遺伝子組み換えでない原料の生産には遺伝子組み換え原料の生産に比べコストがかかります。そのため一般製品と比べて高くなりますが、消費者の方々のご理解とご購入によって、需要と供給のバランスが成り立ち、その安定したサイクルが、遺伝子組み換えでない原料の生産つながり、原料の安定供給につながります。		遺伝子組み換えでない原材料を使用した製品の消費を維持もしくは増やすこと。需要がなければNon-GM原料はそもそも生産されないし、需要が少なくなればGM原料に対するプレミアムが高くなり、製品価格も上がってしまう。	
質問5	気候変動等により原材料の調達で最も課題となっていることについて	異常気象の影響なのか、オーストラリアでも州によって乾燥状態が続き、収穫量の減少は大きな問題となっております。		Non-GM菜種の価格（相場の高止まり、GM菜種との価格差、円安）	
質問6	搾油後の油粕や搾油中に出る副産物の使用について	肥料や家畜の飼料として販売しております。		肥料・飼料・バイオ燃料	
質問7	ゲノム編集由来の原材料が入手可能になった場合の使用について	遺伝子組み換えと同様、ゲノム編集作物についても使用することは考えておりません。		ゲノム編集由来の原材料の安全性や環境への影響が明確なっていないと思われるから。	
質問8	産地農場から輸出港、輸入港、製造工場までの原材料の管理・輸送方法について	現地にてコンテナに菜種を詰めて施錠、弊社工場まで開封することなく輸送します。IP証明書などにより、遺伝子組み換え作物でないこと確認しております。		国産菜種：生産地で農家または集荷業者がフレコンバッグ等に詰めたうえで、弊社にトラックで入庫（国産菜種は遺伝子組み換え品種の商業栽培は無い） 豪州産菜種：農家が圃場ベースでGM/Non-GM品を分けて菜種を生産。集荷業者のサイロにてGM/Non-GM品を分けて保管。複数回の検査を経て、輸出用のコンテナへ詰め替え。船にて日本へ入港。港でフレコンバッグに詰め替えてから弊社にトラックで入庫。	
質問9	原材料トレーサビリティについて	主原料の出荷記録の保存 製品の出荷記録の保存 製造及び出入荷の各ロットの対応付け記録の保存	有 有 有	有 有 無	
				※弊社が使用する原料は、全て遺伝子組み換えでないまたは混入防止管理済み菜種、工場内に遺伝子組み換え菜種は無い。	